



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-8560 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 小児科・持田 千幸

【研究責任者】

聖路加国際病院 小児科 持田 千幸

小児における中心静脈カテーテル関連血流感染症に対する抗 菌薬・エタノールロック療法の有効性に関する検討

1.研究の対象

当院の小児科で2011年1月から2024年4月に中心静脈カテーテル関連血流感染症に対して治療を受けた方

2.研究の目的・方法

中心静脈カテーテル関連血流感染症とは、中心静脈カテーテルに細菌などが感染することで引き起こされる血流感染症です。中心静脈カテーテル感染の基本的治療はカテーテルの抜去および全身抗菌薬の使用ですが、小児科においては中心静脈カテーテル留置は全身麻酔下で行われおり、抜去や再挿入は容易ではありません。近年、カテーテルを留置したまま、抗菌薬およびエタノールを含有した溶液をカテーテル内に一定期間注入することで、カテーテルに付着した細菌を死滅させることが期待されている治療法が提唱されています。現在、本邦では承認されていませんが、米国では中心静脈カテーテル関連血流感染症の治療のガイドラインでも推奨されている確立した治療法です。カテーテル抜去や再挿入に伴う合併症を減らし、安全に中心静脈カテーテル関連血流感染症を治療できることが期待されている一方で、どの薬剤の組み合わせが最も適しているか、長期的な安全性については未だ明らかにはなっていません。本研究は、当院小児科において抗菌薬・エタノールロック療法を行った症例についてカルテからデータ収集を行い、抗菌薬ロック療法の安全性、妥当性を評価することを目的としています。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2026年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2024年6月17日を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、年齢、性別、血液検査結果、入院期間、治療内容、カルテ番号 等